

クリーンよこすか坂本地区市民の会＝連合町内会・クリーン部会主催

児童クリーンポスター展実施 10月18日～25日



自分たちの町は自分たちで守ろう！をテーマに

10月19日防犯パレード実施しました

地域の絆が強く、挨拶をし合う、きれいな町は、犯罪に遭わない、犯罪が遠ざかる町といわれています。

防犯活動をしっかりやりながら、クリーン活動・防災活動・老人会・子供会などの色々な町内活動と連帯・連携をとりながら、安全・安心の町！心豊かで、居心地の良い坂本の町にしましょう！



秋本塗装

代表 秋本利晴

携帯 080-5465-9324

地元業者ならではの「信頼を大切に！」をモットーに頑張っております。

塗装・リフォームのことならおまかせ下さい。お気軽に無料見積もりお申し付け下さい。

生活の中に在る神事と祭事

【11月の神事】

今回は、人生儀礼といわれる神事“お宮参り”と“七五三”についてのお話です。

お宮参りは、子供の健やかな成長とご加護を氏神様にお願いする神事です。生まれた日を1と数え、男児は3日目・女児は3日目に初めて氏神様にお参りします。参道を昇り鳥居をくぐると神域です。神社本殿にてお祓いを受け、子供の成長と幸福を祈願します。この神事によって氏神様から“御霊（みたま）”をお分けいただき、それを“良心”として生きてゆくのです。

神社は“お宮”とも呼ばれますが、これは神様のお腹（＝子宮）を意味しています。神事が終わると、お宮から出て参道（＝産道）を下り元の世界へと戻ります。氏神様から心をいただいて再び生まれることから“氏子”とよばれます。お宮参りで持ち帰る神社境内の小石は、“お食い初め”に使われるもので“歯固めの石”といいます。「石のように固いものでも食べられるくらい丈夫な歯が生えますように。一生、食べることに困りませんように。」という願いがこめられています。

七五三は、子供の成長の節目をお祝いするお祭りです。平安時代に宮中や公家の儀式（神事）として始まった【髪置きの儀（3才）】【袴着の儀（5才）】【帯解きの儀】が由来となっています。

【髪置き（かみおき）の儀】

平安時代は、男・女児ともに幼い頃は髪を剃り、3才の誕生日をむかえて初めて髪を伸ばす風習がありました。髪を剃ることで、やがて健やかな髪が生えてくると信じられていたためです。

綿で作った帽子をかぶって白髪頭（しらがあたま）に見立て、「髪が白くなるまで長生きしますように。」と願いを込めながら、櫛で左右にとかします。神様にいただくものは“言葉”です。

【袴着（はかまぎ）の儀】

男の子は5才になると、初めて袴をはき、碁盤（ごばん）の上に吉方を向いて立ちます。碁盤の目のように“筋目正しく育つ”“ひとり立ちする”“運を自分で開く”との願いが込められています。

神様からいただくものは“知恵”です。

【帯解き（おびとき）の儀】

女の子は7才になると、それまでの紐付きの着物に代わって本裁ちの着物を着て、丸帯を締めました。これを紐解き・帯解きなどといいました。一人で帯を結べるようになることで、一人前の女子として認められました。神様からいただくものは“大人の歯（永久歯）”です。

このような宮中・公家の神事が、七五三として広く一般に広まったのは江戸時代からです。

5代将軍・徳川綱吉公の子、松徳丸が幼少の頃ことのほか体が弱かったため、11月15日に袴着の儀を盛大に祝い、健康長寿を願いました。11月は収穫を終えてその実りを神に感謝する月であり、その月の満月の日である15日は“吉日”と考えられていました。徳川公にあやかり、11月15日を七五三の祝いの日と定め、氏神様にお参りして「子供のこれまでの成長を感謝するとともに、今後の健やかな成長とご加護をお願いする」風習が生まれました。そして、この風習は、江戸から全国へと広まっていったのです。

千歳飴は“細く長い飴”で、縁起が良い紅白それぞれの色で着色されています。袋にも、松竹梅・鶴亀・高砂の尉（じょう）と姥（うば）などの縁起物が描かれており、親が子供の健康と長寿を願う深い愛が込められています。

大六天神社

家族葬ホール / 保冷安置室完備

(有) 横須賀博善社

坂本中央プリエールホール

坂本町6-16 (中央斎場入口)

24時間受付フリーダイヤル 0120-60-2089

TEL 822-2089 FAX 822-2625

<http://www.yokosukahakuzensha.jp/>

